

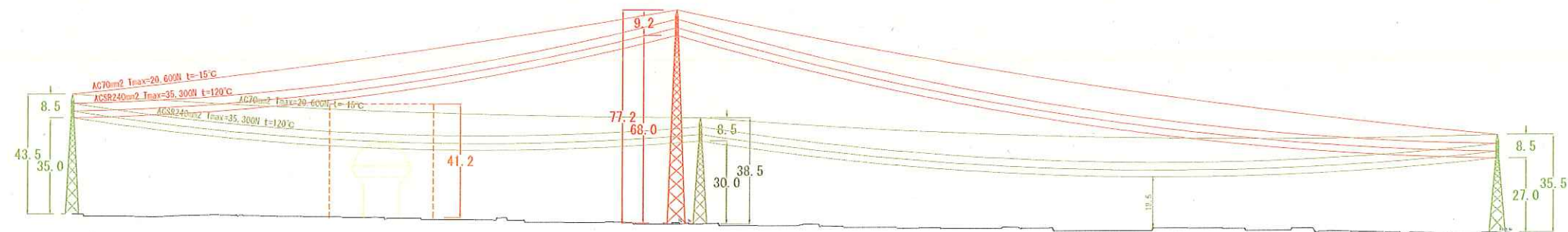
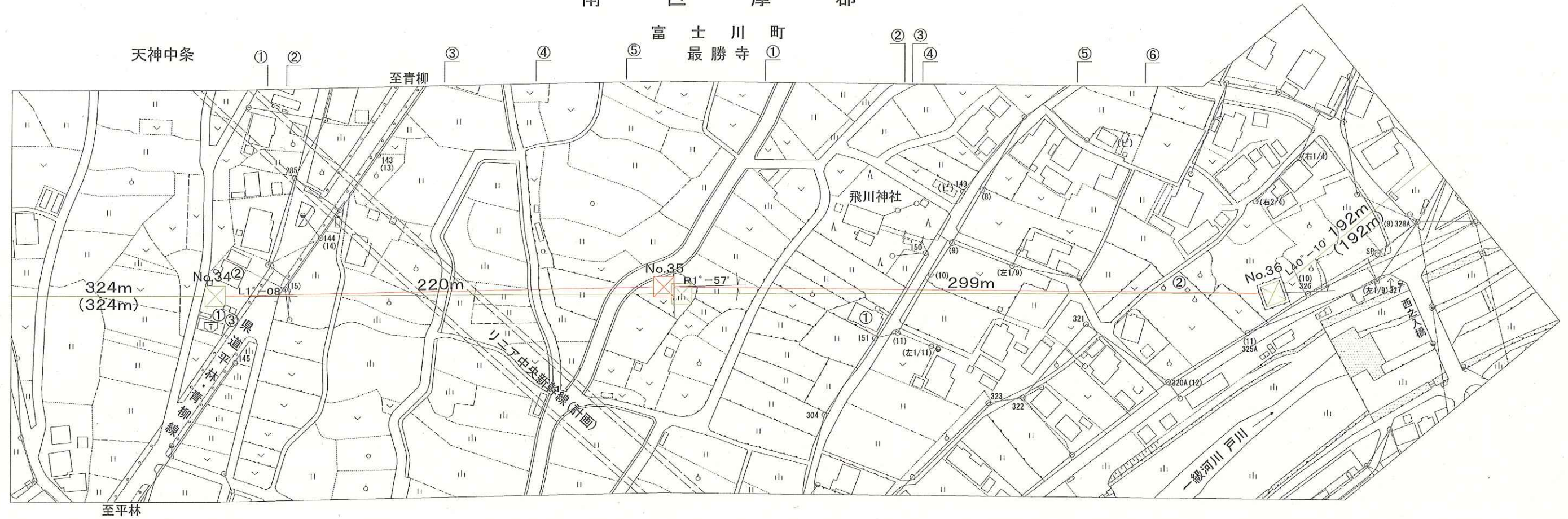
平面図・立面図

図面情報履歴		
年月	区間	
2019年 7月	No. 34 ~ No. 36	
作成		

縮尺: 1/2000

南 巨 摩 郡

富士川町
最勝寺



No.34	M+35.0
緯度	35° 33' 51" 9
経度	138° 27' 05" 0

No.35	M1+68.0
緯度	35° 33' 45" 1
経度	138° 27' 07" 6

No.36	SG+27.0
緯度	35° 33' 35" 7
経度	138° 27' 10" 8

鉄塔装柱検討（現設計）

縮尺：1/50

架空地線の設置について

地線と電線との間隔：3.3m

電線へ直雷しない対策とし、架空地線を設け、電線と地線の角度が小さければ直雷抑制に繋がる。
本設計では $\alpha = 33.69^\circ$ となり66kV装柱で確保すべきしゃへい効果90%以上を確保できることから架空地線と最上電線の配置を決定。

最上電線と
中間電線との間隔：3.1m

相間の考え方
JP線深さ+絶縁間隔+ α
 $1.75 + 0.67 + 0.68 = 3.1\text{m}$

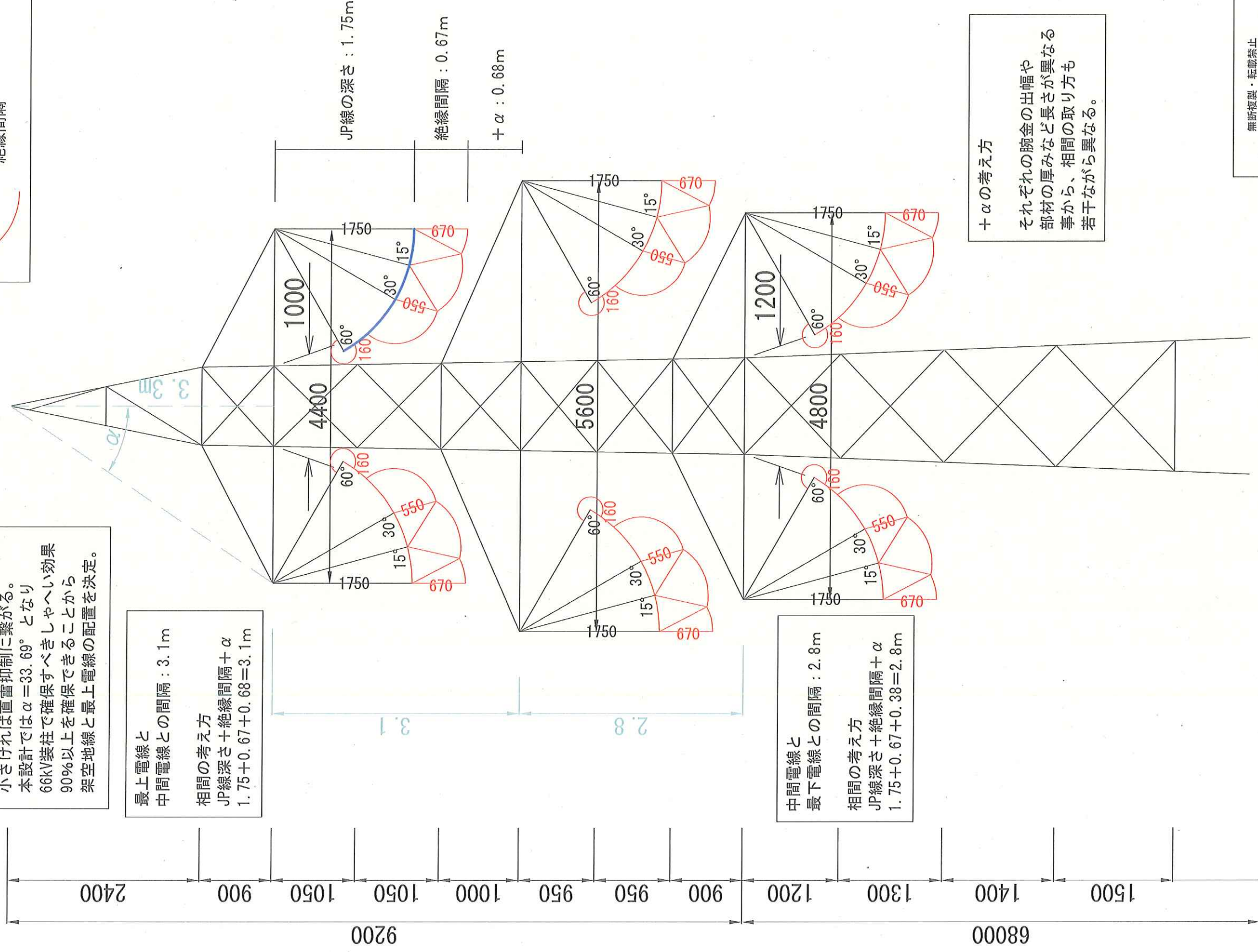
中間電線と
最下電線との間隔：2.8m
相間の考え方
JP線深さ+絶縁間隔+ α
 $1.75 + 0.67 + 0.38 = 2.8\text{m}$

凡 例

JP線（ジャンパー線）

※JP線が風の影響で揺動した軌道

絶縁間隔



+ α の考え方

それぞれの腕金の出幅や
部材の厚みなど長さが異なる
事から、相間の取り方も
若干ながら異なる。

無断複製・転載禁止
東京電力パワーグリッド株式会社
2020年8月27日